

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成21年7月9日(2009.7.9)

【公開番号】特開2007-322992(P2007-322992A)
 【公開日】平成19年12月13日(2007.12.13)
 【年通号数】公開・登録公報2007-048
 【出願番号】特願2006-156056(P2006-156056)
 【国際特許分類】

G 0 3 G 15/08 (2006.01)

【F I】

G 0 3 G 15/08 1 1 2

【手続補正書】

【提出日】平成21年5月25日(2009.5.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

現像剤受入れ装置に着脱可能に設けられ少なくともセット方向への回動を伴うセット動作により現像剤受入れ装置にセットされる現像剤補給容器において、

前記現像剤補給容器内の現像剤を外部へ排出する回転可能な排出部材と、

前記現像剤受入れ装置の駆動ギアと係合可能に設けられ前記排出部材へ駆動力を伝達する駆動伝達部材と、

前記現像剤受入れ装置内にその長手方向に沿って挿入された前記現像剤補給容器を前記駆動ギアから受けた駆動力により回動させるための負荷を前記駆動伝達部材に付与する負荷付与手段と、

前記現像剤補給容器を回動させるとき前記駆動伝達部材と前記駆動ギアの回転中心間距離が設定範囲内を維持するように前記現像剤受入れ装置の係合部材と係合可能な係合部と、

を有することを特徴とする現像剤補給容器。

【請求項 2】

前記係合部は前記現像剤補給容器の長手方向の一端面に立設され前記現像剤補給容器の回動中心を中心とする円弧形状とされていることを特徴とする請求項 1 記載の現像剤補給容器。

【請求項 3】

前記係合部は前記現像剤補給容器を回動させるとき前記駆動伝達部材が前記駆動ギアから離れる方向への移動を規制することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の現像剤補給容器。

【請求項 4】

前記駆動伝達部材は前記現像剤補給容器の回動中心と異なる位置を中心に回転可能であることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれかの現像剤補給容器。

【請求項 5】

前記駆動伝達部材は前記駆動ギアと噛合するギアを有することを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれかの現像剤補給容器。

【請求項 6】

請求項 1 乃至 5 のいずれかの現像剤補給容器を着脱可能に装着する装着スペースを有し

- 、前記現像剤補給容器から現像剤を受入れる現像剤受入れ装置において、
前記現像剤補給容器の駆動伝達部材と係合可能な駆動ギアと、
前記現像剤補給容器の係合部と係合可能な係合部材と、
を有することを特徴とする現像剤受入れ装置。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０１００

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０１００】

位置決めガイド13は、位置決め突起7と同様に、内周面13a（図5d）の寸法公差は位置精度を上げるためにできるだけ厳しく設定されていることが好ましい。なお本例では、内周面13aと位置決め突起7の外周面7aは嵌めあい嵌合の関係に設定した。